

2024休眠預金通信

山梨号
VOL.4



コレクティブインパクトで実現する持続可能なまちづくり
～甲信地域の限界集落、過疎地、消滅自治体と呼ばれる小さな地域から～

編集：山梨県社会福祉協議会
福祉振興課
コミュニティ再生推進担当

2026年度がスタートし、事業も2年目の年度に入りました。

今年度は、それぞれの実行団体が思い描く「持続可能なまちむら」に向かって実験的な試行錯誤をしていきます。

また、本年度には「中間評価」があります。中間評価の主な目的は、事業改善（活動内容や実施体制の見直しなど）です。

実行団体	2026年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
助成金受領	▲申請・受領		▲申請・受領				▲申請・受領					
報告書	▲年度末報告						▲進捗報告書・ 中間評価報告書案					
評価			中間評価計画の 具体化・点検		中間評価 の実施		▲検証 (資⇒実)					
精算	▲年度末精算報告											

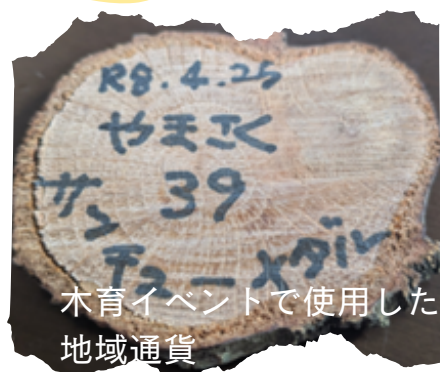
事業の中間地点で、成果の進捗状況を把握し、事業目標の達成見込みを高めるために、どのように事業計画を改善すべきかを明確にしていきます。

PO※の5月の訪問活動等の内容を中心に、各団体の活動について紹介します。

※POとは、プロジェクトオフィサーの略。助成事業の進捗管理や伴走支援を行う役割。

山作LLC合同会社（富士川町）

木育と地域通貨で、支え合う地域の仕組みを育む



里山部分では、伐採・搬入の時期を終え、薪作りやホダ木生産販売を実施して、森林資源の活用を進めています。さらに材木をいろいろな場所や企業で見えていただき、活用を図っています。森林に興味がある方は林業関係者にかかわらず、大学生や小さいお子さんもいらっしゃいます。この里山を使って、つながる森林の輪を大切にしていけるべく連携を模索しています。4月の木育イベントから、地域通貨の実験的検証をおこなっています。薪割り体験等への参加者へ木製メダルを配布し、使用してもらう仕組みを実験的に構築しています。

フリマや工作体験…
多彩な催しにぎわう

富士川でキッズフェア

一般社団法人ふじかわは、富士川・はくばく文化ホールで「キッズフェアまほらの森2026」を開いた。

10日に開催し、遊休品のフリーマーケットやハンドメイド雑貨の販売、工作体験などをする27店舗とキッチンカー8台が出店。朗読劇やパ

ルーンアートのパフォーマンスもあり、親子連れでにぎわった。芝生広場には「森のプレーパーク」が設けられ、まき割り体験をした子どもに、キッチンカーで使える200円分の地域通貨を発行する企画も初めて実施した。

増穂小1年の藤巻颯野さんは「まきが割れた瞬間、木のにおいがして気持ちよかった。力はあるけど楽しかった」と話した。

（戸松優）



まき割り体験をする来場者
＝富士川・はくばく文化ホール

新聞に紹介されました

地域通貨の仕組みへの関心は高かった一方、利用の説明不足が一部見られたため、今後は視認性・説明導線の改善が必要になりそうです。また、イベント会場にて地域住民・事業者・子育て世代へヒアリングをし、意見収集を行っています。

特定非営利活動法人多摩源流 こすげ（小菅村）

「一宿一助の宿・結^{ゆい}」の整備を4月から重点的に行っています。畳やトイレ、キッチンを使えるように修繕しました。廊下は今ベニア板が張られ、今後フローリングを貼っていく予定です。

新しい寝具も用意されているので、実験的に参加していただく方を宿全体で待ち受けています！



張り替え途中の廊下

「一宿一助」で地域と人がつながる、新しい滞在のかたち



よもぎのイベント

また、地域とつながるプログラムとして、小菅村の暮らし方を垣間見られるイベントも行われています。今後は、宿を使用しながらイベントをおこなっていく予定です。小菅村での過ごし方の選択肢を増やすことで、より多くの人に来ていただける場所になることを期待しています。

特定非営利活動法人みんなの街 （北杜市）

“生きづらさと担い手不足、双方を支える
ウェルネス拠点づくり



事務所の裏にも小屋

「自分と向き合うための拠点整備」としての小屋づくりも2棟がほぼ完成し、今後のリトリート事業※に向けて細かい内装などをおこなっています。

現在、居場所運営も並行して行っており、悩みを相談してみたい方など、なんとなく来てみてリフレッシュをしていく方などを受け入れて、活動しています。

今年度は、小屋づくりと並行して、地域と連携する事業も進めていく予定です。地域と連携するなかで、どんな出会いがありどんな活動が生まれていくのかを楽しみにしています。

※日常から離れて自然豊かな環境で、心と体を癒し自分自身と向き合いリフレッシュする事業



みんなの街事務所

GIBIER FACTORY合同会社 (道志村)

ジビエを通じて、山から街へ広がる
流域循環モデル



道志中学校

NHKの取材で、地元と首都圏の番組に紹介いただきました。視聴者からの猟師体験の申し込みも多数あったようで、メディアの影響力を感しました。今後、この解体トレーラーを最大限活用すべく、解体のマニュアルをつくり作業できる方を増やしたり、猟師さんから受け入れる量を増やしていきます。

また、地元の道志中学校にて、村の良さを村外に伝える授業の講師を務めました。授業では、流域でつながる横浜の人たちに村でとれた食材の魅力を伝えるため、生徒たちが横浜のスーパーで直売する取り組みを行っており、どのような表現をすれば相手に魅力が伝わり、買ってもらえるか等真剣に取り組んでくれました。



休眠預金活用事業のご紹介

休眠預金活用事業の内容が気になって、「自分も休眠預金活用事業の活動に参加したい!」「休眠預金活用事業をやってみたい!」と思ったかたもいらっしゃるかと思います。そんな方には、JANPIA（一般財団法人日本民間公益活動連携機構）のこのホームページをご紹介します!

「自分も休眠預金活用事業の活動に参加したい!」

休イベントページ

<https://www.kyuplat.com/event/>



「休眠預金活用事業をやってみたい!」

「どんな事業があるのか興味がある!」

情報公開サイトページ

<https://johokoukai.janpia.or.jp/>

